令和5年度

主要施策の成果に関する説明書

令和6年度滋賀県議会定例会
令和6年9月定例会議提出

[文化スポーツ部門]

滋 賀 県 の 施 策 の 分 野

- I 人 自分らしい未来を描ける生き方
- II 経 済 未来を拓く 新たな価値を生み出す産業
- III 社 会 未来を支える 多様な社会基盤
- IV 環 境 未来につなげる 豊かな自然の恵み

目 次

	頁
I 人	77
II 経 済	該当なし
III 社 会	該当なし
IV 環 境	該当なし

(注) 主要施策の成果に関する説明書の記載について

「成果の説明」の欄中

【感】とあるのは「新型コロナウイルス感染症」対応関連事業を示す。

I 人

自分らしい未来を描ける生き方

事 項 名	成 果 の 説 明
<p>1 子どもの文化芸術体験の充実</p> <p>予 算 額 45,588,000 円</p> <p>決 算 額 45,586,056 円</p>	<p>1 事業実績</p> <p>(1) 滋賀次世代文化芸術センターの運営費補助 9,800,000円</p> <p>ア 文化芸術連携事業 文化施設、芸術家と学校を結び、子どもたちが文化芸術を体験する授業を実施。 実施件数 76件 学校数 26校 児童・生徒数 4,571人</p> <p>イ ボランティア、スタッフの育成・研修 大学と連携したボランティア派遣や芸術と教育との連携を深めるための研修会を実施。 文化ボランティア数 16人 スタッフ・教育関係者研修会 日程：令和5年8月7日 場所：MIHO MUSEUM 参加者数：41人</p> <p>(2) びわ湖ホール舞台芸術体験事業（「ホールの子」事業） 33,748,056円 県内の子どもたちが優れた舞台芸術に触れる機会を提供するため、びわ湖ホールに県内小学生等を招き、オーケストラとびわ湖ホール声楽アンサンブルによる音楽公演を平成23年度から実施している。 令和5年度は6日間で12公演を実施し、うち6公演を（公財）びわ湖芸術文化財団へ委託して実施した（残り6公演は指定管理事業）。また、県内各地からの参加を促すため、交通費の補助を行った。 日 程：令和5年6月1日～2日、6日～9日 各 10:30～、14:00～（全12回公演） 場 所：滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 大ホール 参加数：県内小学校等 173校 児童・生徒数10,049人 補助数：県内小学校等 162校 補助率：実績額の全額を補助</p> <p>(3) 美ココロ・パートナーシップ事業 2,038,000円 多様な環境下にある子どもたち（別室登校・不登校児童生徒等）を対象に、若手芸術家を本事業の講師である「美ココロ・パートナー」として派遣し、様々な芸術に触れ、豊かな心を育む文化芸術体験プログラムを提供した。 学校数18校 児童・生徒数 延べ 355人 派遣した美ココロ・パートナー 陶芸家6人、打楽器奏者4人</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>2 施策成果</p> <p>(1) 滋賀次世代文化芸術センターの運営費補助 滋賀次世代文化芸術センターが行う連携授業により、多くの子どもたちが文化芸術に触れ、創造する機会を提供することができた。美術館による質の高い教材支援、講師、スタッフ、ボランティアの分かりやすい説明や細やかな対応により、子どもたちに文化芸術の楽しさや感動を伝えることができた。</p> <p>(2) びわ湖ホール舞台芸術体験事業（「ホールの子」事業） コロナ禍以降実施していなかった、出演者と参加した子どもたちが一緒に歌う「みんなで歌おう」を4年ぶりに行うなど、県内の小学生等に舞台芸術を直接体験できる機会を提供することができた。また、交通費の補助を行うことで、遠方の学校の負担を軽減した。</p> <p>(3) 美ココロ・パートナーシップ事業 多様な環境下にある子どもたちが、文化芸術に触れることで、自己を育て感動や安らぎを感じることができる機会を提供することができた。不登校の児童・生徒が増えている状況や学校側の要望に応じて授業内容を工夫したことにより、学校の信頼を得て、充実したプログラムを実施することができた。</p> <p>3 今後の課題</p> <p>(1) 滋賀次世代文化芸術センターの運営費補助 文化芸術を体験する連携授業に参加する学校は県南部に多いことから、それ以外の地域から参加する学校を増やす必要がある。</p> <p>(2) びわ湖ホール舞台芸術体験事業（「ホールの子」事業） 事業に参加した学校からは、直接舞台芸術に触れる貴重な経験として高い評価を得ており、参加校を増やす方策について引き続き検討していく必要がある。</p> <p>(3) 美ココロ・パートナーシップ事業 様々な事情により、学校が実施するプログラムに参加しにくい状況にある子どもたちを対象としている事業であり、事業実施までの調整等に手間がかかることから、より多くの学校で事業を実施することができるよう、「美ココロ・パートナー」として取り組む若手芸術家を、派遣を通して育成する必要がある。</p> <p>4 今後の課題への対応</p> <p>(1) 滋賀次世代文化芸術センターの運営費補助 ①令和6年度における対応 令和4年度に開設したホームページや教員・学校関係者に向けた研修等を通じて、センターの活動内容について検証し、発信するとともに、県南部以外の地域にも事業の周知や参加の呼びかけを行う。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>(3) 近江文化発見・発信事業 3,228,500円 司馬遼太郎氏生誕100年を記念し、司馬氏の作品を通じて県民が滋賀の歴史・風土・文化・自然等の魅力を改めて感じ、地域への愛着を深めることを目的に、司馬氏の名著『関ヶ原』の朗読会を開催した。 司馬遼太郎氏生誕100年記念朗読会「関ヶ原」 実施日：令和5年10月14日（土） 実施会場：大津市伝統芸能会館 参加者数：152人</p> <p>(4) 滋賀県芸術文化祭の開催 27,978,004円 主催事業 公募展（美術展覧会、写真展覧会、文学祭）の開催 応募点数：1,709点 参加事業 開催期間中（令和5年8月～令和6年1月）に文化団体等が行う事業を参加事業として承認し、支援した。 参加事業数：208事業 参加者数：延べ311,535人</p> <p>2 施策成果</p> <p>(1) 文化情報誌等の発行・配布 県域の文化芸術情報を網羅した総合的な情報誌「湖国文化情報『れいかる』」を発行し、県内の文化施設や市町、商業施設等へ配布することにより、文化情報を効果的に発信できた。 また、滋賀の歴史や自然、芸術などについて幅広く掲載した総合文化誌「湖国と文化」を県内外の図書館や教育機関等に配布し、滋賀の魅力を広く発信することにより、滋賀の文化への興味・関心を高めた。</p> <p>(2) 【感】文化芸術活動継続支援事業 個人・団体を含め、音楽や美術等様々な分野の文化活動の再開・継続を支援することで、文化芸術に親しめる機会や鑑賞の機会を提供することができた。</p> <p>(3) 近江文化発見・発信事業 県内外の参加者に滋賀ゆかりの文学作品を通して滋賀の魅力を感じてもらうことができた。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明																		
	<p>(4) 滋賀県芸術文化祭の開催 県民の日頃の芸術文化に関する創作活動の成果を発表する場を提供するとともに、優れた芸術文化に親しみ、鑑賞する場を提供することができた。</p> <table border="0" data-bbox="734 448 1536 515"> <tr> <td>公募展の応募点数</td> <td>令 2</td> <td>令 3</td> <td>令 4</td> <td>令 5</td> </tr> <tr> <td>(単位：点)</td> <td>1,643</td> <td>1,766</td> <td>1,789</td> <td>1,709</td> </tr> </table> <p>令和 7 年度（2025 年度）の目標とする指標</p> <table border="0" data-bbox="734 628 1778 695"> <tr> <td>文化芸術に取り組む環境が整っていると感じる人の割合</td> <td>令 5</td> <td>目標値</td> <td>達成率</td> </tr> <tr> <td></td> <td>41.9%</td> <td>50.0%</td> <td>83.8%</td> </tr> </table> <p>3 今後の課題</p> <p>(1) 文化情報誌等の発行・配布 県の文化情報をより効果的に周知する方策について検討する必要がある。</p> <p>(2) 【感】文化芸術活動継続支援事業 より身近に文化芸術に親しめる場づくりに積極的に取り組むとともに、必要に応じて絵画や書道、オーケストラ等の文化芸術活動への支援についても検討を進める。</p> <p>(3) 近江文化発見・発信事業 滋賀ならではの豊かで魅力ある文化を再発見し、また、県外に対しても発信する取組を引き続き展開する必要がある。</p> <p>(4) 滋賀県芸術文化祭の開催 出品者の高齢化が進んでおり、若年層をはじめ幅広い年齢層の参加を促す必要がある。</p> <p>4 今後の課題への対応</p> <p>(1) 文化情報誌等の発行・配布</p> <p>①令和 6 年度における対応 新たな配布先の確保に努め、様々な文化情報を網羅し、迅速に発信するなど充実した誌面づくりを行う。</p>	公募展の応募点数	令 2	令 3	令 4	令 5	(単位：点)	1,643	1,766	1,789	1,709	文化芸術に取り組む環境が整っていると感じる人の割合	令 5	目標値	達成率		41.9%	50.0%	83.8%
公募展の応募点数	令 2	令 3	令 4	令 5															
(単位：点)	1,643	1,766	1,789	1,709															
文化芸術に取り組む環境が整っていると感じる人の割合	令 5	目標値	達成率																
	41.9%	50.0%	83.8%																

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>②次年度以降の対応 引き続き、新規読者の獲得につながるよう配布先の検討を行い、より充実した誌面づくりを行う。</p> <p>(2) 【感】文化芸術活動継続支援事業</p> <p>①令和6年度における対応 新型コロナウイルス感染症関連事業として実施していたため、令和6年度は実施していない。</p> <p>②次年度以降の対応 県民、文化団体、民間団体など、多様な主体の文化芸術活動が自立的に継続していく方策を検討していく。</p> <p>(3) 近江文化発見・発信事業</p> <p>①令和6年度における対応 小学生以上の子ども等を対象に、松尾芭蕉の句に関係する地域など、県内の文化財等を訪問し、現地で俳句を詠む俳句ワークショップおよび高校生を対象とした俳句コンクールを実施し、県への愛着や文学作品への関心を深める機会を創出する。</p> <p>②次年度以降の対応 文学作品等を通じた滋賀の魅力について、県内外に対して発信する取組を引き続き展開する。</p> <p>(4) 滋賀県芸術文化祭の開催</p> <p>①令和6年度における対応 若年層をはじめ幅広い年齢層の県民が参加できるよう、募集、実施方法、広報等を工夫していく。</p> <p>②次年度以降の対応 引き続き、若年層を含め、幅広い年齢層の参加を促す。</p> <p style="text-align: right;">(文化芸術振興課)</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
<p>3 美の魅力発信の推進</p> <p>予 算 額 18,557,000 円</p> <p>決 算 額 18,033,158 円</p>	<p>1 事業実績</p> <p>(1) 美の資源活用推進事業 6,089,133円 地域にある美の資源を活用した取組を支援するとともに、団体同士の連携を図るための会議を開催した。また、美術館やびわこ文化公園一帯において、展示やワークショップを行い、各団体と美術館との連携強化を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・採択団体（7団体） ・連携推進会議 令和5年9月15日 ・オンライン成果発表会 令和6年3月1日 ・美術館内のラボ等を利用した活動内容の紹介展示、ワークショップの開催（13回開催） ・「『滋賀をみんなの美術館に』プロジェクトサイト」での情報発信 <p>(2) 福祉の現場から生まれた造形の魅力発信事業 3,612,279円 県内各地で作品展示を行い、滋賀の福祉の現場から生まれた造形の魅力発信に努めた。また、障害のある人による美術表現を軸に、多様な表現や鑑賞のあり方の可能性を考えていく連携ネットワーク組織の運営を行い、フォーラムの開催やメールマガジンの発行による情報提供等を行った。</p> <p>ア 宿泊施設での作品展示 4か所 映像展示 1か所</p> <p>イ フォーラム（ライブ、オンライン配信、アーカイブ配信）1回 開催日 令和5年11月3日 視聴回数 延べ495回</p> <p>ウ メールマガジンの発行 令和5年度会員数792人 発行回数 41回</p> <p>(3) 美の魅力一体的発信事業 8,331,746円 県立美術館内の入場自由なエリアに、アール・ブリュットおよび信楽焼の2つのテーマに焦点を当て、いつでもその魅力に触れることのできる常設コーナーを設置した。また、地域の施設や学校・団体等と連携し、子どもをはじめ多くの県民が美の魅力に出会い、楽しむことができるワークショップや講座などを、美術館内やびわこ文化公園内で実施した。</p> <p>ア アール・ブリュットおよび信楽焼展示コーナー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品展示 ・パネル展示による紹介 ・関連資料の配架等 <p>イ 「美の糸ローアートにどぼん！2023」 びわこ文化公園内の施設ならびに県内の作家および団体等と連携してイベントを開催 合計49回</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>2 施策成果</p> <p>(1) 美の資源活用推進事業 県内の7団体が事業を展開し、琵琶湖や各地域の産業・風景等、地域の資源を結び付けて発信するとともに、美術館内での展示やワークショップを実施し、美術館との連携をより深めることができた。</p> <p>(2) 福祉の現場から生まれた造形の魅力発信事業 県内4か所の宿泊旅館のロビーや廊下、喫茶スペース、客室等に作品を展示することで、観光客等に対して、作品や作家、そして制作現場を紹介し、福祉の現場から生まれた造形の魅力を伝え、新たな造形との出会いを促進することができた。 また、フォーラムをライブ、オンライン配信、アーカイブ配信で実施し、作り手の多様性だけでなく、鑑賞における多様性、障害のある人の文化的な営みを支えるためにはどうしたらいいのか、考える機会を作ることができた。</p> <p>(3) 美の魅力一体的発信事業 アール・ブリュット、そして滋賀の福祉の現場での創作活動とその関係性をわかりやすく紹介する展示を実施し、アール・ブリュット作品や信楽焼の作品をいつでも身近に鑑賞できる環境を作ることができた。 「美の糸ローアートにどぼん！2023」では、多様な滋賀の美の魅力との出会いを通じて、多くの方がつながりアートの魅力と楽しみ方を五感で体験できる機会を提供することができた。</p> <p>3 今後の課題</p> <p>(1) 美の資源活用推進事業 多様な美やアートを通じた人と地域、社会のつながりや、新たな創作活動への刺激を生み出すとともに、取組を支える仕組みの維持・強化を支援し、さらなる地域活性化につなげていく必要がある。</p> <p>(2) 福祉の現場から生まれた造形の魅力発信事業 作品自体の魅力を発信することに加えて、作品を生み出した制作現場にもスポットライトを当て、より幅広くその魅力を発信していく方策を検討する必要がある。</p> <p>(3) 美の魅力一体的発信事業 「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」や「大阪・関西万博」により、国内外からの多くの来県者が見込まれる状況を、本県の多様で豊かな美の魅力を発信する好機とし、美術館や地域に根差した文化やアートを、関係機関と連携して文化観光につなげていく必要がある。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>4 今後の課題への対応</p> <p>(1) 美の資源活用推進事業</p> <p>①令和6年度における対応 さらなる相互連携や各団体と美術館との連携を深めるとともに、現場での活動に寄り添った支援をし、「美の魅力にあふれる滋賀をみんなの美術館に」というコンセプトのもと、多くの方々の共感・参画を得ながら取組を進める。</p> <p>②次年度以降の対応 各団体間の連携調整や各団体と美術館との連携、一体的な発信を通じて、コミュニティの活性化や美の資源を活用した取組のネットワークの構築を目指す。</p> <p>(2) 福祉の現場から生まれた造形の魅力発信事業</p> <p>①令和6年度における対応 県内外の多くの方に、滋賀の福祉の歴史を背景に育まれた造形の魅力に出会っていただくとともに、滋賀ならではの文化資源をテーマとした観光や周遊のきっかけとなるよう、県内各地の宿泊施設等で作品の紹介を行う。</p> <p>②次年度以降の対応 「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」や「大阪・関西万博」により来県者の増加が見込まれる中で、関係機関とも連携して、より効果的な広報に努める。</p> <p>(3) 美の魅力一体的発信事業</p> <p>①令和6年度における対応 美術館やびわこ文化公園でイベントやワークショップを開催し、出会い、学び、交流や賑わいを創出する。また、美術館開館40周年の記念イベントとして13のワークショッププログラムを一日を通して開催する。</p> <p>②次年度以降の対応 滋賀の美の魅力発信の拠点である美術館をより魅力的なものにし、文化観光の拠点として活動を行っていくとともに、担い手の育成、懸け橋となる人材の確保など、将来にわたり取組を継続・強化できる仕組みを検討していく。 (文化芸術振興課)</p>

事 項 名	成 果 の 説 明																														
<p>4 滋賀県立文化産業交流会館の管理運営 (指定管理)</p> <p>予 算 額 321,698,000 円</p> <p>決 算 額 320,619,000 円</p>	<p>1 事業実績</p> <p> 主催事業</p> <p> 芝居小屋「長栄座」公演をはじめ、古典芸能を次世代へ継承するワークショップ、学校へのアウトリーチ、室内楽コンサート等を開催。</p> <p> 27事業、50公演、入場者数 29,669人、有料公演入場率（イベントホール）86%</p> <p>2 施策成果</p> <p> より多くの県民に文化芸術に触れる機会を提供するとともに、県北部における芸術文化活動の拠点として、びわ湖ホールとの連携のもと幅広い世代を対象とした事業を展開した。</p> <p> 特に、邦楽・邦舞の公演では、芝居小屋「長栄座」を制作し、滋賀県をテーマにしたオリジナル邦楽作品を湖国の風景映像とともに上演するなど、より親しみやすい公演を県民に提供した。さらに、県民の方々に直接出演いただく公演を実施するなどの人材養成事業にも取り組んだ。</p> <table border="0" data-bbox="705 766 1579 981"> <tr> <td>主催事業入場者数</td> <td>令2</td> <td>令3</td> <td>令4</td> <td>令5</td> </tr> <tr> <td>(単位：人)</td> <td>8,925</td> <td>21,701</td> <td>20,042</td> <td>29,669</td> </tr> <tr> <td>貸館事業入場者数</td> <td>令2</td> <td>令3</td> <td>令4</td> <td>令5</td> </tr> <tr> <td>(単位：人)</td> <td>26,145</td> <td>33,755</td> <td>40,229</td> <td>44,912</td> </tr> <tr> <td>貸館件数</td> <td>令2</td> <td>令3</td> <td>令4</td> <td>令5</td> </tr> <tr> <td>(単位：件)</td> <td>698</td> <td>727</td> <td>699</td> <td>657</td> </tr> </table> <p>3 今後の課題</p> <p> 広報や公演内容等について、びわ湖ホールとの連携をさらに進めながら、特色のある事業を実施していく必要がある。</p> <p>4 今後の課題への対応</p> <p> ①令和6年度における対応</p> <p> びわ湖ホール声楽アンサンブルによる公演を実施するなど、びわ湖ホールとの連携をさらに強化するとともに、「長栄座」をはじめ古典芸能分野で特徴的な事業展開を行い、県北部の芸術文化活動の拠点として賑わいを創出する。</p>	主催事業入場者数	令2	令3	令4	令5	(単位：人)	8,925	21,701	20,042	29,669	貸館事業入場者数	令2	令3	令4	令5	(単位：人)	26,145	33,755	40,229	44,912	貸館件数	令2	令3	令4	令5	(単位：件)	698	727	699	657
主催事業入場者数	令2	令3	令4	令5																											
(単位：人)	8,925	21,701	20,042	29,669																											
貸館事業入場者数	令2	令3	令4	令5																											
(単位：人)	26,145	33,755	40,229	44,912																											
貸館件数	令2	令3	令4	令5																											
(単位：件)	698	727	699	657																											

事 項 名	成 果 の 説 明									
5 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール ^の 管理 運営（指定管理） 予 算 額 940,647,000 円 決 算 額 934,123,000 円	<p>②次年度以降の対応 より多くの県民に文化芸術に触れる機会を提供するとともに、県北部における芸術文化活動の拠点として事業を展開する。 （文化芸術振興課）</p> <p>1 事業実績 主催事業 オペラ、オーケストラ、室内楽・声楽、演劇、古典芸能等の公演を開催。 48事業、153公演、入場者数 56,098人、有料公演入場率 72%</p> <p>専属声楽アンサンブル運営 オペラへの招待、プロデュースオペラ、定期公演、「ホールの子」事業、ふれあい音楽教室等に出演。</p> <p>広報営業 広報活動 公演チケット情報「Stage」（毎月発行、各16,000部）、舞台芸術情報誌「湖響」（年4回、各10,500部）の発行、ホームページの運用、公演プログラムの発行、新聞寄稿、雑誌、テレビ、ラジオ等</p> <p>営業活動 チケットの企業・団体向け組織販売、青少年料金（24歳以下）の設定、民間助成金等の確保、友の会運営（一般会員 2,317人 サポート会員 477口 特別会員 189口）等</p> <p>観客創造 劇場サポーター 116人、シアターメイツ 1,148人、リハーサルの公開等</p> <p>ホール施設および駐車場の管理運営 各ホール貸館利用件数 167件 入場者数 99,070人 駐車場利用台数 78,228台</p> <p>2 施策成果 令和5年度はびわ湖ホール開館25周年、第3代芸術監督に阪哲朗が就任した節目の年であった。多彩なジャンルで国内外の優れた公演を開催するとともに、国際的水準の舞台芸術を制作し公演を実施するなど、県民文化の向上に貢献する事業を展開した。</p> <table border="0" style="width: 100%; margin-top: 20px;"> <tr> <td style="width: 30%;">主催事業入場者数 （単位：人）</td> <td style="width: 15%;">令 2 20,522</td> <td style="width: 15%;">令 3 43,519</td> <td style="width: 15%;">令 4 57,394</td> <td style="width: 15%;">令 5 56,098</td> </tr> </table>					主催事業入場者数 （単位：人）	令 2 20,522	令 3 43,519	令 4 57,394	令 5 56,098
主催事業入場者数 （単位：人）	令 2 20,522	令 3 43,519	令 4 57,394	令 5 56,098						

事 項 名	成 果 の 説 明				
	貸館事業入場者数 (単位：人)	令 2 22,112	令 3 63,455	令 4 65,912	令 5 99,070
	貸館件数 (単位：件)	令 2 95	令 3 169	令 4 157	令 5 167
	<p>3 今後の課題 引き続き、国際的水準の舞台芸術を県民に提供し、それを国内外に発信していく必要がある。また、オペラの制作など積極的な事業展開を行うため、公演チケットをはじめとする事業収入の拡大、国や民間助成金等の収入の拡大、貸館利用の拡大、積極的な寄附獲得など歳入確保に向けた取組が必要である。</p> <p>4 今後の課題への対応</p> <p>①令和6年度における対応 「びわ湖の春 音楽祭～夢と憧れ～」において、びわ湖ホールを拠点に県全域が音楽で盛り上がるよう文化産業交流会館をはじめ、市町ホールで関連コンサートを開催した。 引き続き、幅広い多彩なジャンルで優れた公演を実施するとともに、広報活動および協賛支援の確保等に努めていく。</p> <p>②次年度以降の対応 より多くの県民に文化芸術に触れる機会を提供するとともに、積極的な広報活動による事業収入の拡大のほか、多様な財源確保に努め、積極的な事業展開に取り組む。</p> <p style="text-align: right;">(文化芸術振興課)</p>				

事 項 名	成 果 の 説 明
<p>6 美術館における事業の推進</p> <p>予 算 額 99,235,000 円</p> <p>決 算 額 95,386,029 円</p>	<p>1 事業実績</p> <p>(1) 展覧会の開催 75,312,607円 長寿命化工事により休館するまでの間に、県民をはじめとする来館者に、滋賀にゆかりの作家やコレクションの魅力に出会っていただけるよう、「小倉遊亀と日本美術院の画家たち展」、「今森光彦展」、「みかたの多い美術館展」の3本の企画展を開催したほか、コレクションを生かした常設展を開催した。 常設展示 9回 企画展示 3回 観覧者数 50,202人（年度内延べ人数）</p> <p>(2) 美術に関する教育交流事業の実施 10,322,895円 美術に関する魅力や楽しさに触れてもらうためのイベントや出前授業を館内外で開催した。 ・たいけんびじゅつかん 5回実施、参加者 160人 ・学校出前授業プログラム 30回実施、参加者 1,710人 ・展覧会関連イベント 25回実施、参加者 817人 など</p> <p>(3) 美術品の収集と保全 9,750,527円 作品収集 594件（購入 4件、寄贈 590件） 作品修復 10件</p> <p>2 施策成果 当館ならではの特色のある展覧会やイベントを実施し、県内外の多くの方に当館の所蔵品をはじめ多様な美術に出会える機会や美術の魅力を体験する機会を提供した。また、日本財団よりアール・ブリュット作品549件の寄贈を受けたこと、個人より若手アーティストの作品の寄贈を受けたことは、当館のコレクションの幅を広げることとなった。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
<p>7 希望が丘文化公園の管理運営（指定管理）</p> <p>予 算 額 347,574,000 円</p> <p>決 算 額 345,829,000 円</p>	<p>3 今後の課題 収蔵品の価値や滋賀の文化の魅力を県内外の多くの方に知っていただける展覧会や、子どもや障害を持った方々を含め多くの県民が美術の楽しさに触れることができる機会の拡大が必要である。また寄贈を受けた作品を中心とした新たな収蔵品を鑑賞することができる展覧会の開催が必要である。</p> <p>4 今後の課題への対応 ①令和6年度における対応 「つくる冒険展 日本のアール・ブリュット45人」、「滋賀の家展」、「志村ふくみ 生誕100年記念展」、「BUTSUDORI展」などの企画展やワークショップシリーズ（アートにどぼん！）などの取組を実施する。 ②次年度以降の対応 魅力的な展覧会を企画・開催するとともに、積極的な情報発信を展開する。学校団体鑑賞や多様な鑑賞者へのプログラムを積極的に実施する。また、美術館の活動を継続・発展させることができるように県美メンバーおよびサポーターの増加に努めていく。さらには美術館魅力向上ビジョンに基づき策定する美術館の整備計画を継続的に実現していく。 （文化芸術振興課）</p> <p>1 事業実績 青少年育成事業等 56事業、参加者総数 72,219人 3つのゾーン（青少年宿泊研修所、野外活動施設、スポーツ施設）のそれぞれの特色を生かした事業を実施。 ・自然体験 自然観察会、夏休み自然塾など ・ふれあい交流イベント 秋まつり、ふれあい祭など ・野外活動・宿泊体験 アウトドアキッズキャンプ、ファミリーキャンプフェスタなど ・スポーツ振興 スポーツフェスティバル、ディスクゴルフ大会など 施設の運営管理 来園者総数 842,847人 施設の利用状況 ・青少年宿泊研修所（青年の城） 利用件数 371件 利用者数 34,621人 ・野外活動施設 利用件数 319件 利用者数 13,186人 ・スポーツ施設 利用件数 2,729件 利用者数 157,181人 計 利用件数 3,419件 利用者数 204,988人</p>

事 項 名	成 果 の 説 明																				
	<p>2 施策成果</p> <p>豊かな自然環境を生かした憩いの公園として、安心安全、快適な施設提供に努めるとともに、県民文化の向上、健康づくりや体力の向上、青少年の健全育成のための各種事業を実施した結果、多くの来園者があり、県民に親しまれる公園としての役割を果たした。</p> <p>また、地元関係機関や団体等との連携・協働を深める取組を重視しつつ、魅力的な公園づくりに努めたほか、3月から9月の休園日（月曜日）の開園や、夏期における利用時間の延長を行うなど、利用者サービスの向上に努めた。</p> <table border="0" data-bbox="705 555 1456 694"> <tr> <td>来園者総数</td> <td>令2</td> <td>令3</td> <td>令4</td> <td>令5</td> </tr> <tr> <td>（単位：人）</td> <td>502,915</td> <td>656,403</td> <td>857,965</td> <td>842,847</td> </tr> <tr> <td>施設利用者数</td> <td>令2</td> <td>令3</td> <td>令4</td> <td>令5</td> </tr> <tr> <td>（単位：人）</td> <td>82,910</td> <td>121,755</td> <td>197,440</td> <td>204,988</td> </tr> </table> <p>3 今後の課題</p> <p>公園の特徴を生かした事業展開や情報発信の工夫、安心・快適に利用できる施設の管理などに努め、利用者満足度の向上と利用者の拡大につなげる必要がある。</p> <p>4 今後の課題への対応</p> <p>①令和6年度における対応</p> <p>利用者に安全・快適に利用していただけるよう施設の維持管理や公園運営に努める。</p> <p>②次年度以降の対応</p> <p>開園後52年を経て施設の老朽化が進んでおり、より一層の来園者の安全・快適な利用のため、施設・設備の点検や修繕に努める。</p> <p style="text-align: right;">（文化芸術振興課）</p>	来園者総数	令2	令3	令4	令5	（単位：人）	502,915	656,403	857,965	842,847	施設利用者数	令2	令3	令4	令5	（単位：人）	82,910	121,755	197,440	204,988
来園者総数	令2	令3	令4	令5																	
（単位：人）	502,915	656,403	857,965	842,847																	
施設利用者数	令2	令3	令4	令5																	
（単位：人）	82,910	121,755	197,440	204,988																	
<p>8 希望が丘文化公園活性化の推進</p> <p>予 算 額 20,858,000 円</p> <p>決 算 額 20,696,660 円</p>	<p>1 事業実績</p> <p>民間企業7社へのサウンディング調査結果等を踏まえ、公園全体の効果的・効率的な管理運営方法や活性化の方針を検討した。</p> <p>2 施策成果</p> <p>希望が丘文化公園活性化方針策定支援業務委託において、民間企業へのサウンディング調査を実施するとともに、調査結果等に基づき公園の活性化方針（素案）を作成した。</p>																				

事 項 名	成 果 の 説 明
<p>9 文化財の保存と継承</p> <p>予 算 額 1,090,889,000 円</p> <p>決 算 額 934,571,645 円</p> <p>(翌年度繰越額 155,802,000 円)</p>	<p>3 今後の課題 公園の活性化方針を策定し、方針に基づく施設の再整備や管理運営の実施手法の検討を進める必要がある。</p> <p>4 今後の課題への対応 ①令和6年度における対応 活性化方針の内容の実現可能性等について民間企業へのサウンディング調査を実施したうえで、活性化方針を策定する。さらに、方針に基づく施設の再整備や管理運営の実施手法について検討を進める。 ②次年度以降の対応 活性化方針に基づく事業を実施する事業者の公募に向けて、公募資料の作成を行う。 (文化芸術振興課)</p> <p>1 事業実績</p> <p>(1) 指定文化財の保護 181,116,231円</p> <p>ア 県指定文化財の新指定 6件 (有形文化財 5件、史跡 1件)</p> <p>イ 国指定文化財保存修理等補助 39件 (うち前年度繰越 3件)</p> <p>ウ 県指定文化財保存修理等補助 14件</p> <p>エ 埋蔵文化財発掘調査等補助 16市町</p> <p>(2) 発掘調査の実施 5,060,544円</p> <p>ア 公共事業等に伴う試掘・確認調査の実施：39件</p> <p>(3) 史跡の保存整備等の実施 76,992,230円</p> <p>ア 史跡公有化 公有化実施史跡：近江大津宮錦織遺跡 (510.75㎡)</p> <p>イ 県有史跡地の維持管理</p> <p>(4) 文化財保存修理受託事業の実施 671,402,640円</p> <p>ア 文化財保存修理受託事業費 受託箇所数：3箇所</p> <p>2 施策成果</p> <p>(1) 指定文化財の保護 県指定文化財の新指定や滋賀県文化財保存基金を活用し文化財の保存修理等に対して支援を行うことにより、次の世代へ引き継ぐべき国民的財産である文化財の保存を図ることができた。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>(2) 発掘調査の実施 埋蔵文化財の試掘・確認調査を計画的に行うことで、埋蔵文化財の保存と公共事業の円滑な推進を図ることができた。</p> <p>(3) 史跡の保存整備等の実施 緊急性の高い土地の公有化や県有史跡地の維持管理等を行うことで、地域の歴史にとって重要な価値を持つ史跡を適切に保存することができた。</p> <p>(4) 文化財保存修理受託事業の実施 国指定文化財建造物について、所有者から委託を受けて保存修理工事を行うことで、破損の著しい建造物を計画的に修理することができた。</p> <p>3 今後の課題 本県には、国指定等文化財が 1,456件、県指定文化財が 528件あり、重要文化財の指定件数は全国第4位（令和5年度末時点）である。これら数多くの優れた文化財を次の世代に良好に引き継いでいくため、国、市町、所有者等と連携し、計画的な保存・修理に努めていく必要がある。 平成30年度および令和元年度の文化財保存修理工事において、職員が官製談合防止法違反および公契約関係競売入札妨害により逮捕・起訴されたことを重く受け止め、第三者による検証会議での検証結果を踏まえ再発防止に引き続き取り組んでいく必要がある。</p> <p>4 今後の課題への対応</p> <p>(1) 指定文化財の保護</p> <p>①令和6年度における対応</p> <p>ア 県指定文化財の新指定のための調査および審議会の開催</p> <p>イ 国指定文化財保存修理等補助予定件数 43件（うち前年度繰越 3件）</p> <p>ウ 県指定文化財保存修理等補助予定件数 7件（うち前年度繰越 1件）</p> <p>エ 埋蔵文化財発掘調査等補助予定件数 15件</p> <p>②次年度以降の対応 引き続き滋賀県文化財保存基金を活用して計画的に保存修理等のための支援を進める。</p> <p>(2) 発掘調査の実施</p> <p>①令和6年度における対応</p> <p>試掘・確認調査予定件数 10件</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>②次年度以降の対応 開発事業計画を早期に把握し、発掘調査の円滑な実施を図る。</p> <p>(3) 史跡の保存整備等の実施</p> <p>①令和6年度における対応 緊急性の高い史跡地の公有化（史跡近江国府跡（国庁跡））を進めるとともに、継続して県有史跡地の適切な維持管理を行う。</p> <p>②次年度以降の対応 所有者の要望等を考慮し計画的に史跡地の公有化を進める。</p> <p>(4) 文化財保存修理受託事業の実施</p> <p>①令和6年度における対応 国指定建造物保存修理事業の予定箇所数 3箇所 不適切事案に係る再発防止策においては、業務量の削減の観点から工事の難易度に応じて民間団体に協力を得ることにより県としての業務量軽減を図っている。また、受託体制を強化するため、主任技術者としての承認に必要な研修を受講し、技術職員の育成に努める。</p> <p>②次年度以降の対応 国指定建造物保存修理事業については、引き続き計画的な修理を実施していく。 不適切事案に係る再発防止策について、主任技術者の養成には時間を要することや、全国的にも不足している状況であることから、すぐに確保することは容易ではないが、継続的かつ長期的な人材育成・確保に努めるなど、再発防止に向けた取組を進める。</p> <p style="text-align: right;">（文化財保護課）</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
<p>10 文化財の魅力の発信</p> <p>予 算 額 310,773,000 円</p> <p>決 算 額 301,921,489 円</p> <p>(翌年度繰越額 4,642,000 円)</p>	<p>1 事業実績</p> <p>(1) 文化財の魅力の発信 55,907,323 円</p> <p>ア 「近江の城」魅力発信事業</p> <p>近江の城の魅力を全国に向けて広く発信し、滋賀への来訪者の拡大を図ることを目的に、首都圏等での情報発信事業と県内での探訪交流事業等を実施した。</p> <p>【首都圏等での取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京シンポジウム 1 回 96人 ・東京講座 1 回 52人 ・移住希望者向けセミナー 1 回 19人 ・お城E X P Oへの出展 2 日間 18,088人 ・大阪お城フェスへの出展 3 日間 7,887人 <p>【県内での取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出張！お城E X P O i n 滋賀・びわ湖 1 日 2,029人 ・県内文化財探訪・講座 5 回 217人 <p>イ 彦根城世界遺産登録推進事業</p> <p>国の文化審議会から「彦根城の世界遺産登録については、事前評価制度を活用することが望ましい」との意見が示されたことに伴い、事前評価申請書の作成・提出を行った。併せて、機運醸成のための取組を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前評価申請書をユネスコに提出 ・価値の発信および機運醸成に向けたシンポジウムの開催 1 回 147人 ・民間団体と連携した機運醸成の取組等を実施 <p>ウ 「幻の安土城」復元プロジェクト事業</p> <p>安土城の実像を明らかにし、見える化を図ることで安土城への注目を集めることを目的として、安土城の実像解明と保全、デジタル技術を活用した安土城の見える化、機運醸成の取組の3つの柱で事業を実施した。</p> <p>(ア) 安土城の実像解明と保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「特別史跡安土城跡整備基本計画」に基づく令和の調査・整備事業の着手 <p>(イ) デジタル技術を活用した安土城の見える化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル技術を活用した「幻の安土城」見える化実施設計の作成 ・滋賀県立安土城考古博物館第1期展示改修の着手（令和5年度～令和6年度） ・「安土山図屏風」探索に係るバチカン市国への訪問 <p>(ウ) 機運醸成の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史セミナーの実施 3 回 555人

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>エ 「未来につなぐ」滋賀の文化財普及事業 文化財に関する講座をサテライト会場でオンライン配信を実施するとともに、県内高校で出前講座を実施した。 また、文化財の魅力を発信するための啓発冊子を作成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サテライト会場での配信 6回(延べ13会場) 100人 ・高校での出前講座 延べ 297人 ・国登録無形民俗文化財に登録された「近江のなれずし製造技術」に係る啓発冊子の作成 <p>(2) 文化財の保存・活用・発信拠点の充実 246,014,166円</p> <p>ア 安土城考古博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示事業 常設展、特別展 2回、企画展 2回、特別陳列、ロビー展示、回廊展示、屋外展示 ・来館者数 39,542人 ・普及啓発事業 講演・講座等(城郭探訪含む) 28回 1,059人 体験学習・ワークショップ 4回 51人 博学連携事業(生徒・引率者数)31校 1,310人 ・設備改修等 資料保管室空調設備の更新、照明設備のLED化等を実施した。 <p>イ 琵琶湖文化館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示事業(休館中のため他の博物館等で開催) 琵琶湖文化館地域連携企画展の開催 4回 補陀洛山 長光寺 (令和5年4月1日～4月10日) 入館者数: 130人 滋賀県立美術館 (令和5年10月7日～11月19日) 入館者数: 8,294人 成菩提院 (令和5年11月3日～11月12日) 入館者数: 427人 滋賀県立安土城考古博物館(令和6年2月10日～4月7日) 入館者数: 5,252人 ・普及啓発事業 講座「滋賀の文化財講座 花湖さんの打出のコヅチ」7回 613人 ・新しい琵琶湖文化館の整備 新しい琵琶湖文化館の整備に向けて、令和4年度に入札条件等を定めた実施方針の策定および特定事業の選定を実施し、PFI事業の入札公告により事業者の募集を行った。令和5年度はPFI事業者の選定および契約の締結を行い、基本設計を進めるなど着実な整備推進を行った。

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>ウ 埋蔵文化財センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財に関する資料の収集、整理、保管および普及・啓発活動の実施 出土遺物・記録資料のデータ整理や貸出等の対応 ロビー展示や大津京駅構内での展示を実施 学校教育機関への出前事業等の実施 ・埋蔵文化財センターの機能強化に向けた検討 埋蔵文化財センター機能強化の検討に向けてセンターの耐震診断を実施した。 <p>2 施策成果</p> <p>(1) 文化財の魅力の発信</p> <p>ア 「近江の城」魅力発信事業</p> <p>首都圏などの県外での情報発信については、シンポジウムや講座の実施、お城E X P Oのような大規模なイベントへの参加により、より幅広く滋賀県の城郭の魅力を発信することができた。また、県内での取組については、「出張！お城E X P O i n 滋賀・びわ湖」や文化財探訪・講座に多くの方に参加いただき、本県の文化財の魅力を発信した。</p> <p>イ 彦根城世界遺産登録推進事業</p> <p>国の文化審議会から示された意見に対応し、事前評価申請書を作成し、令和5年9月にユネスコに提出を行った。併せて、東京でのシンポジウムの開催や、事前評価制度に進んだことを発信するための広報物の作成、民間団体と連携した取組により機運醸成を図ることができた。</p> <p>ウ 「幻の安土城」復元プロジェクト事業</p> <p>全国的にも高い知名度を誇る戦国の城であるが、その実像については謎に包まれている部分が多い安土城の復元プロジェクトを行うことにより、安土城や滋賀の歴史等に対して多くの注目を集めることができた。</p> <p>令和5年度から20年間かけて実施を予定する令和の調査・整備事業として、天主台周辺の発掘調査に着手し、天主台石垣の崩壊状況等を確認した。また、安土城の見える化に向けて、アプリを活用して多様な情報を提供するデジタル技術を活用した「幻の安土城」見える化実施設計を作成するとともに、安土城考古博物館の第一期展示リニューアルに向けた展示改修事業に着手することができた。「安土山図屏風」の探索については、パチカン市国を訪問し、屏風調査に向けた文化交流を進めることができた。</p> <p>エ 「未来につなぐ」滋賀の文化財普及事業</p> <p>文化財講座をサテライト会場でオンライン配信を実施することや県内の高校で出前講座を実施することにより、より多くの方が文化財講座に参加し、文化財の魅力に触れる機会を創出することができた。また、「近江のなれずし製造技術」が国登録無形民俗文化財に登録されたことを契機として啓発冊子を作成し、機会を捉えた魅力発</p>

事 項 名	成 果 の 説 明															
	<p>信を行うことができた。</p> <p>(2) 文化財の保存・活用・発信拠点の充実</p> <p>展示および講座等の実施や情報発信により、本県の歴史文化資産の価値や魅力を紹介することができ、近江の優れた歴史文化に対する理解を深めることに寄与することができた。</p> <p>また、新しい琵琶湖文化館の整備に向け、入札公告を行った結果、令和5年7月10日に落札業者を決定し、PFI事業契約に基づき基本設計の作成を行うことができた。加えて、埋蔵文化財センターの機能強化に向けた検討材料として、建物の耐震性についての情報を得ることができた。</p> <p>令和8年度（2026年度）の目標とする指標</p> <table border="1" data-bbox="719 628 2072 730"> <thead> <tr> <th>「近江の城1300」関連事業数および総参加者数</th> <th>令5</th> <th>令6</th> <th>令7</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標</td> <td>18回／2,900人</td> <td>19回／3,000人</td> <td>20回／3,100人</td> <td>21回／3,200人</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>17回／3,559人</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>3 今後の課題</p> <p>(1) 文化財の魅力の発信</p> <p>本県は豊かな歴史に育まれた豊富な文化財を有しているが、その存在や価値がまだ十分に知られていないため、引き続き県内外に、より効果的な魅力発信を行っていく必要がある。</p> <p>また、彦根城の世界遺産登録に向けては、事前評価の結果を受けた対応が必要となってくる。早期の登録の実現に向け、国や彦根市と連携のうえ取組を着実に進めていく必要がある。「幻の安土城」復元プロジェクト事業では、特別史跡安土城跡整備基本計画に基づき令和の調査・整備事業を着実に実施するとともに、デジタル技術を活用した安土城の見える化に向けて、アプリの作成や安土城考古博物館の展示改修を行っていく必要がある。</p> <p>(2) 文化財の保存・活用・発信拠点の充実</p> <p>ア 安土城考古博物館</p> <p>大規模な設備改修や展示見直しが必要な時期となっている。</p> <p>イ 琵琶湖文化館</p> <p>新しい琵琶湖文化館が整備されるまでの間、収蔵品の適切な環境整備を行うとともに、地域連携企画展の開催などによる収蔵品の活用を継続して実施する必要がある。また、新しい琵琶湖文化館の着実な整備を進める必要がある。</p> <p>ウ 埋蔵文化財センター</p> <p>埋蔵文化財センターの機能強化に向けて、埋蔵文化財センターのあるべき姿の整理を行うとともに、耐震診断結果を踏まえた耐震対策や老朽化対策等を総合的に検討する必要がある。</p>	「近江の城1300」関連事業数および総参加者数	令5	令6	令7	目標値	目標	18回／2,900人	19回／3,000人	20回／3,100人	21回／3,200人	実績	17回／3,559人	—	—	—
「近江の城1300」関連事業数および総参加者数	令5	令6	令7	目標値												
目標	18回／2,900人	19回／3,000人	20回／3,100人	21回／3,200人												
実績	17回／3,559人	—	—	—												

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>4 今後の課題への対応</p> <p>(1) 文化財の魅力の発信</p> <p>①令和6年度における対応</p> <p>彦根城世界遺産登録推進事業では、事前評価の結果に基づき、彦根城が世界遺産に相応しい価値を有することについて明確にするとともに、引き続き機運醸成の取組を行う。「幻の安土城」復元プロジェクト事業では、安土城の実像解明を図るため発掘調査などの令和の調査・整備事業を引き続き実施するとともに、安土城への注目を集めるためにデジタル技術を活用した「幻の安土城」見える化アプリの作成を行う。これらの事業と併せて、県内外の各地で城に関するイベントや講座を実施することにより、城をはじめとした本県ならではの文化財の魅力発信を行う。</p> <p>②次年度以降の対応</p> <p>本県の豊富な文化財の存在や価値を十分に周知していくためには継続的な取組が必要であり、今後も様々な場面で文化財を活用し、その魅力の発信を行う。</p> <p>(2) 文化財の保存・活用・発信拠点事業の充実</p> <p>①令和6年度における対応</p> <p>安土城考古博物館については、長期保全計画に基づき計画的に設備更新を進めていくとともに、「幻の安土城」復元プロジェクトの情報発信拠点として第1期展示改修を行い、令和7年春のリニューアルオープンを行う。</p> <p>琵琶湖文化館については、引き続き地域連携企画展を開催するとともに、令和9年度の新しい琵琶湖文化館の開館に向けてPFI事業として実施設計の作成を行い、着実な整備の推進を行う。</p> <p>埋蔵文化財センターについては、埋蔵文化財センターあり方検討会議を設置し、埋蔵文化財センターのあるべき姿を有識者からの意見を基に整理する。</p> <p>②次年度以降の対応</p> <p>安土城考古博物館については、令和7年春のリニューアルオープンの好機に「幻の安土城」復元プロジェクト事業と連携して、「安土城・信長・戦国」の魅力をより一層発信する。</p> <p>琵琶湖文化館については、建築工事など開館に向けた整備を進めるとともに、令和9年度の開館に向けた広報活動などの情報発信も実施する。</p> <p>埋蔵文化財センターについては、埋蔵文化財センターあり方検討会議で整理した埋蔵文化財センターのあるべき姿を滋賀県でどのように実現していくのか、引き続き検討を行う。</p> <p style="text-align: right;">(文化財保護課)</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
<p>11 スポーツの総合的な振興</p> <p>予 算 額 96,298,000 円</p> <p>決 算 額 87,439,730 円</p>	<p>1 事業実績</p> <p>(1) 生涯スポーツ振興事業の推進 10,811,497円</p> <p>ア 広域スポーツセンターの運営</p> <p>市町巡回指導の実施 実施回数 87回</p> <p>地域スポーツ指導者研修会 受講者数 169人 (11月11日 県立武道館、12月10日 東近江市能登川コミュニティセンター、12月16日 県立長浜ドーム、1月14日 ピアザホール)</p> <p>イ 運動・スポーツ実施率の向上</p> <p>企業における健康増進プログラムの実践 参加者延べ 1,871人</p> <p>運動効果発信事業 参加者延べ 361人</p> <p>(2) しがスポーツの魅力の総合発信 6,548,840円</p> <p>ア 「しがスポーツ大使」と県民との交流推進事業 実施件数25件 参加人数 4,089人</p> <p>「しがスポーツ大使」50者 (個人40人と団体10者)</p> <p>イ 運動遊び指導者派遣「しがスポーツの子」事業21回 参加園児数 619人</p> <p>ウ スポーツ情報発信サイト「しがスポーツナビ！」運營業務委託 アクセス件数 140,230件</p> <p>(3) プロスポーツを活用した県民のスポーツ推進 10,909,880円</p> <p>県内プロスポーツ等3チーム (滋賀レイクス、東レアローズ、レイラック滋賀FC) の試合会場において、横断幕等の掲示や電光掲示板による広告掲出、冠ゲームの開催により令和7年の国スポ・障スポ大会等のスポーツ大会の周知と機運醸成を図るとともに、びわ湖マラソン等の大規模大会のPR、運動習慣化の啓発を行った。</p> <p>試合観戦者数 約11万7,000人</p> <p>(4) 障害者スポーツの振興 59,169,513円</p> <p>ア 滋賀県障害者スポーツ大会 (選考会の部、スポーツフェスタの部、スペシャルスポーツの広場) 開催</p> <p>選考会の部：開催日 9月2日, 9月16日, 9月30日, 10月7日, 10月15日, 11月11日, 11月19日 参加者数 682人</p> <p>スポーツフェスタの部：開催日 6月10日, 7月1日, 7月22日, 8月5日 参加者数 203人</p> <p>スペシャルスポーツの広場：延べ12回実施 (高島市、東近江市、長浜市、栗東市、彦根市) 参加者数 911人</p> <p>イ 全国障害者スポーツ大会選手派遣 (鹿児島県)</p> <p>本大会 10月28日～10月30日 (派遣選手数 個人競技29人)</p> <p>成績 個人競技 金22個、銀10個、銅4個</p> <p>ウ 滋賀県障害者スポーツ協会運営費の補助</p> <p>専門委員会 3回、強化委員会 2回</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>エ 障害者スポーツ推進事業・障害者スポーツ共生社会プロジェクト 障害者スポーツ教室等開催 16団体 参加者数 延べ2,405人 関係団体へのコーディネーター訪問支援 35回（WEB訪問等を含む） 障害者スポーツ理解促進事業 体験会 4回（参加者数 延べ66人）、研修会4回（参加者数 延べ365人）</p> <p>2 施策成果</p> <p>(1) 生涯スポーツ振興事業の推進</p> <p>ア 身近な地域での核となる総合型地域スポーツクラブ（55クラブ）について、クラブアドバイザーを派遣し運営や活動に対して助言等を行い支援することができた。また、総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度の説明や準備について指導する中で、アシスタントマネージャーの資格取得を促進したことにより、登録認証制度の申請をスムーズに進めることができた。</p> <p>イ 県内企業の従業員を対象に、大学が考案した健康増進プログラムを4か月間実践し、体力や身体組成を定期的に測定した。集団で取り組むことで参加者のモチベーションを維持でき、休み時間を活用した運動の定着化につながった。効果発信事業では、大型商業施設の利用者に対して各種体力テストを行い、健康運動指導士による助言を通じて運動の必要性を訴えることができた。</p> <p>(2) しがスポーツの魅力の総合発信</p> <p>ア 「しがスポーツ大使」と県民との幅広い交流を推進することにより、スポーツそのものの魅力を発信するだけでなく、自己啓発や人権問題など、様々な分野でスポーツを通じてしがスポーツの魅力を発信できた。</p> <p>イ 県内のこども園等に運動遊び指導者を派遣し、運動遊びプログラム「Pic」を活用した運動遊びを実施することにより、「Pic」の普及ならびに子どもが運動遊びに取り組むきっかけとすることができた。</p> <p>ウ 県内のスポーツに関する情報を総合的に発信するポータルサイト「しがスポーツナビ！」を運営し、本県ゆかりの選手のインタビュー動画やスポーツイベントのレポート、新たに五輪種目に採用された競技の紹介記事等を掲載したほか、施設情報を刷新して利便性を高めた。イベント情報の発信も強化することで、県民のスポーツを「する」「みる」「支える」活動を支援し、スポーツ振興を図ることができた。</p> <p>(3) プロスポーツを活用した県民のスポーツ推進</p> <p>プロスポーツ等の持つ集客力や発信力等を活用し、試合会場における県内で開催される国スポ・障スポ等の大規模スポーツ大会のPRを実施することができた。また、運動・スポーツの習慣化や障害者スポーツの普及に向けた啓発により県民の運動・スポーツのきっかけをつくることができた。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明										
	<p>(4) 障害者スポーツの振興</p> <p>ア スペシャルスポーツの広場、スポーツフェスタ、県大会と段階に応じた滋賀県障害者スポーツ大会を県内各地で開催し、障害のある人の社会参加の場としての役割を果たせた。</p> <p>イ 総合型地域スポーツクラブ14団体と市町障害者スポーツ協会2団体が障害者スポーツに取り組み、各地域で障害者スポーツ教室等を開催し、障害者に対して継続的に運動・スポーツの機会を提供することができた。障害者スポーツ理解促進事業では、障害者スポーツに関する体験会や研修会を実施し、障害者スポーツを知っていただく機会を提供することで理解促進を図ることができた。</p> <p>令和8年度（2026年度）の目標とする指標</p> <table border="1" data-bbox="705 622 1971 694"> <tr> <td>成人（男女）の週1回以上のスポーツ実施率</td> <td>令3（策定時）</td> <td>令5</td> <td>目標値</td> <td>達成率</td> </tr> <tr> <td></td> <td>52.0%</td> <td>52.1%</td> <td>66%</td> <td>0.7%</td> </tr> </table> <p>3 今後の課題</p> <p>(1) 生涯スポーツ振興事業の推進</p> <p>ア 総合型地域スポーツクラブは、令和6年4月時点で55クラブ設立されている。令和4年度から総合型地域スポーツクラブ全国協議会等が運営する登録・認証制度への申請が始まり、25クラブが登録・認証クラブに登録された。今後は、登録申請されたクラブの更なる充実した活動の支援と、まだ登録・認証クラブに申請していないクラブに申請を促し、総合型地域スポーツクラブが地域課題に応えるための「社会的な仕組み」として定着するよう推進していく必要がある。</p> <p>イ 成人の週1回以上のスポーツ実施率は、国の52.0%に対して県は52.1%と国を上回り、県民の運動・スポーツに対する意識は着実に高まっている。今後は、実施率が低い働き盛りの世代や女性に対し、より多くの人々が継続的にスポーツに取り組めるよう、県内大学や企業等と連携し効果的に事業を展開していく必要がある。</p> <p>(2) しがスポーツの魅力の総合発信</p> <p>ア スポーツの魅力発信を充実させるため、「しがスポーツ大使」との交流を通じて、より多くの県民に運動・スポーツに興味関心を持っていただけるよう、引き続き交流事例の発信や関連団体等を通じた事業周知を行う必要がある。</p> <p>イ 「しがスポーツの子」事業については、遊びを通じて発達段階に応じた動きを身に付けるために専門の指導者による運動遊びプログラム「Pic」を活用した運動遊びの充実を図り、県内の幼稚園、保育園、認定こども園等において、「Pic」を定着させていく必要がある。</p>	成人（男女）の週1回以上のスポーツ実施率	令3（策定時）	令5	目標値	達成率		52.0%	52.1%	66%	0.7%
成人（男女）の週1回以上のスポーツ実施率	令3（策定時）	令5	目標値	達成率							
	52.0%	52.1%	66%	0.7%							

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>ウ 「しがスポーツナビ！」について、より一層魅力あるサイトにしていくため、オリンピックやパラリンピックなど話題性の高い情報や国スポ・障スポなど様々な本県スポーツイベント等の情報の発信、SNSも活用してタイムリーな話題をこまめに更新していく必要がある。</p> <p>(3) プロスポーツを活用した県民のスポーツ推進 県内のプロスポーツ等3チームの試合会場でPRや啓発を実施してきたが、SNSを活用するなど、試合会場以外でも実施できる効果的な情報発信の方法について引き続き検討していく必要がある。</p> <p>(4) 障害者スポーツの振興 ア 滋賀県障害者スポーツ協会をはじめ、福祉・教育・スポーツ分野の関係者や団体と連携し、障害者スポーツ大会等を周知するとともに、参加しやすいきっかけづくりや環境づくりに取り組む必要がある。 イ 総合型地域スポーツクラブをはじめとする地域スポーツ団体等における障害者スポーツの実践を広めるため、障害者スポーツを実施している団体のノウハウ等の共有を図るとともに、新規に取り組む団体を掘り起こしていく必要がある。</p> <p>4 今後の課題への対応 (1) 生涯スポーツ振興事業の推進 ①令和6年度における対応 ア 総合型地域スポーツクラブが地域スポーツコミュニティの核として発展するよう、クラブに対して登録・認証制度の必要性を周知するとともに、クラブアドバイザーによる市町巡回支援や講習会・研修会を継続して実施する。また、中学校部活動の地域連携・地域クラブへの移行を推進するため、スポーツ指導者の確保や育成を進め、クラブの質的充実を推進する。 イ 県民のスポーツ実施状況について調査を行い、成人の週1回以上のスポーツ実施率について進捗の確認を行うとともに県内大学と連携した健康増進プログラムの実践やイベント等によりスポーツ習慣化の取組を推進する。 ②次年度以降の対応 ア 広域スポーツセンターを通じて、クラブアドバイザーの派遣を継続して実施することなどにより総合型地域スポーツクラブの組織運営の強化を支援する。また、総合型地域スポーツクラブに期待される身近なスポーツの場としての公益的な役割に関して、情報提供を行っていく。 イ 成人の週1回以上のスポーツ実施率がより一層向上するよう、大学や企業、プロスポーツチームといった多様な機関との連携を図りながらスポーツ習慣化の取組を推進する。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>(2) しがスポーツの魅力の総合発信</p> <p>①令和6年度における対応</p> <p>ア 次年度に開催を控えた国スポ・障スポに向け、県内のスポーツを盛り上げるために、「しがスポーツ大使交流推進事業」の積極的な活用を推進する。小中高校および特別支援学校の校長会や福祉サービス事業所の連携会議等で宣伝を行ったり、小中学校やスポーツクラブ等に大使派遣のニーズを伺い、大使とのマッチングをしたりと、例年以上に積極的に事業を展開する。</p> <p>イ 「しがスポーツの子」事業では、総合型地域スポーツクラブ連絡協議会と連携を図りながら地域のクラブからスタッフ等を派遣し、運動遊びの機会創出を促進する。</p> <p>ウ 「しがスポーツナビ！」の魅力を高めるため、パリオリンピック・パラリンピックに出場する本県ゆかりの選手の情報を発信する特設ページやプロスポーツチーム等の情報を網羅した特設ページを新たに開設する。また、滋賀県ゆかりのアスリートの紹介やスポーツの魅力発信に関するコンテンツの制作を継続するとともに、SNSでの情報発信も強化し、各スポーツ事業の機運醸成を図る。</p> <p>②次年度以降の対応</p> <p>引き続き滋賀県ゆかりのアスリートやチームの活躍、スポーツイベント等の情報発信を「しがスポーツナビ！」を活用し実施するとともに、障害者スポーツについての情報発信も継続していく。</p> <p>(3) プロスポーツを活用した県民のスポーツ推進</p> <p>①令和6年度における対応</p> <p>プロスポーツチーム等の選手と子どもたちが競技体験を通じて交流する「しがプロスポーツフェス」を開催し、スポーツの魅力を伝えるとともに、各チームの試合観戦を促す。ホームゲーム会場やSNS等において引き続きスポーツ関連事業のPRを行い、国スポ・障スポ等の大規模スポーツ大会の機運醸成および運動・スポーツ習慣化の啓発等に取り組む。</p> <p>②次年度以降の対応</p> <p>引き続き、選手と子どもたちが交流する機会をつくるとともに、各チームの発信力や集客力を活用して県民のスポーツ推進につながる取組を進める。</p> <p>(4) 障害者スポーツの振興</p> <p>①令和6年度における対応</p> <p>ア 滋賀県障害者スポーツ大会において、障害のある方が気軽に大会に参加できる「スポーツフェスタの部」および身近な地域でスポーツを楽しむことができる「スペシャルスポーツの広場」に一層、新たな参加者（特に若年層）を増やせるよう、関係機関に周知していく。また、特別支援学校の教職員の引率旅費を確保する等の取組により特別支援学校等の生徒が県大会等へ参加しやすい環境づくりを進める。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
<p>12 スポーツ大会の開催・支援</p> <p>予 算 額 64,515,000 円</p> <p>決 算 額 63,741,295 円</p>	<p>イ 総合型地域スポーツクラブでの障害者スポーツの取組を広めるため、既に取り組を実施しているクラブの情報やノウハウ等の共有を進める。また、障害者スポーツに関する知見を有する大学と連携し、障害者スポーツの実施環境の整備等、諸課題への対応方策を検討する。</p> <p>②次年度以降の対応</p> <p>ア 障害者スポーツの理解をより多くの県民に広げるとともに、大会等への参加者が増えるよう、様々な機会を通じて大会の内容や魅力を発信する等、幅広い広報活動に努める。</p> <p>イ 障害者スポーツの体験イベントなどを通して、障害の有る無しに関わらず多くの県民に障害者スポーツを知っていただくことによって、地域での障害者スポーツの機運醸成や共生社会の実現を推進する。</p> <p style="text-align: right;">(スポーツ課)</p> <p>1 事業実績</p> <p>(1) びわ湖マラソン大会の開催 51,000,000円 「びわ湖毎日マラソン」および「びわ湖レイクサイドマラソン」の伝統を受け継ぐ新たな市民マラソン大会である「びわ湖マラソン」の大会実施に向け、開催市および競技団体、関係団体等と連携しながら準備を進め、第2回大会を開催した。 開催日 3月10日 参加者数 6,628人 (エントリー数 7,593人)</p> <p>(2) スポーツ大会の開催 7,250,000円 ア 滋賀県民総スポーツの祭典 開催期間 4月～3月(競技ごとに随時開催) 参加者数 31,305人 イ 朝日レガッタ 開催日 5月3日～6日 参加者数 1,049人 ウ B I W A K Oクロカン 開催日 2月4日 完走者数 1,427人</p> <p>(3) シンボルスポーツ創出支援事業 3,526,000円 国スポ・障スポ開催競技の地域での普及・定着に向けた取組や、ホストタウン交流の継続・深化やホストタウンゆかりの競技の普及等を図るため、市町や郡市スポーツ協会が主催する12の事業を支援した。</p> <p>(4) 【感】県内スポーツ活動新型コロナウイルス感染症対策支援事業 1,965,295円 県内スポーツ団体等が、試合や教室開催等で取り組む新型コロナウイルス感染防止対策に対し支援を行った。 スポーツ団体等 16件</p> <p>2 施策成果</p> <p>(1) びわ湖マラソン大会の開催 第2回大会として開催したびわ湖マラソン2024では、46都道府県から 6,600名を超えるランナーに参加いただくことができた。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明								
	<p>また、多くの企業から協賛をいただくとともに、学校や企業、各種団体から2,500名を超えるボランティア等の協力を得たことで、安全に大会を開催することができた。</p> <p>加えて、給食やフィニッシュ会場の飲食ブースを中心に滋賀県ならではのおもてなしを提供することで、大会の魅力を高め地域の活性化につながった。</p> <p>(2) スポーツ大会の開催</p> <p>ア 滋賀県民総スポーツの祭典、朝日レガッタ、BIWAKOクロカンの開催を支援し、スポーツ振興の一翼を担うことができた。</p> <p>イ 本県におけるスポーツボランティア文化の定着を図るための推進組織「しがスポーツボランティア協議会」が中心となり、ボランティアに関する基礎知識や救命講習など多様なジャンルの研修の実施や、トップアスリートと交流できる機会の創出といった受講者の参加意欲向上につながる方策を展開した結果、令和5年度末時点でスポーツボランティアの登録者数は累計4,609人となった。(対前年度末494人増)</p> <p>(3) シンボルスポーツ創出支援事業</p> <p>国スポ・障スポの普及・定着については、市町等10団体が実施した国スポ・障スポ関連イベントや競技体験会等を支援し、ホストタウン交流では、ローイングのニュージーランド代表の栄養士を招いた大津市、障害者スポーツの体験会を開催した甲賀市を支援し、東京2020オリンピック・パラリンピックのレガシーとしてホストタウン交流の継続・深化等の取組を支援することができた。</p> <p>(4) 【感】県内スポーツ活動新型コロナウイルス感染症対策支援事業</p> <p>スポーツ少年団などのスポーツ団体に活用いただき、新型コロナウイルス感染症対策を講じて、安全・安心なスポーツ活動を支援することができた。</p> <p>令和8年度(2026年度)の目標とする指標</p> <table data-bbox="705 1053 1624 1125"> <thead> <tr> <th>スポーツボランティア参加者数</th> <th>令5</th> <th>目標値</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>1,300人</td> <td>1,500人以上</td> <td>87%</td> </tr> </tbody> </table> <p>3 今後の課題</p> <p>(1) びわ湖マラソン大会の開催</p> <p>大会開催に必要な協賛金やボランティアの安定的な確保のため、引き続き企業や各種団体等に積極的なアプローチをする必要があるほか、大会の満足度向上のため、沿道応援やおもてなしなどの盛り上げについてさらに検討を進める必要がある。</p> <p>また、交通規制等による地域への影響を鑑み、自治会や沿道施設に丁寧な周知を行う必要がある。</p>	スポーツボランティア参加者数	令5	目標値	達成率		1,300人	1,500人以上	87%
スポーツボランティア参加者数	令5	目標値	達成率						
	1,300人	1,500人以上	87%						

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>加えて、大会当日の救護件数を最小限に抑えるために大会当日の救護体制を整えるだけでなく、健康管理に関する事前啓発を進めていく必要がある。</p> <p>(2) スポーツ大会の開催</p> <p>ア 各種スポーツ大会を継続発展させるため、各大会の魅力を発信し、県内外から多く参加をいただく必要がある。</p> <p>イ スポーツボランティアの登録者数は順調に推移しているが、びわ湖マラソンや令和7年の国スポ・障スポなど大規模なスポーツイベントにおいて登録者がスムーズに活動できるよう、事前に研修やボランティアに参加するなど実践的な経験を積んでいただく必要がある。</p> <p>(3) シンボルスports創出支援事業</p> <p>国スポ・障スポの開催競技を一つでも多く地域に根付かせるため、市町と競技団体の連携を促し、地域を巻き込んだ取組へと発展させる必要がある。</p> <p>4 今後の課題への対応</p> <p>(1) びわ湖マラソン大会の開催</p> <p>①令和6年度における対応</p> <p>びわ湖毎日マラソンやびわ湖レイクサイドマラソンでこれまで培ったノウハウを活かして、協賛金の獲得やボランティアの募集を行うとともに、応援に来られる方々の移動手段の確保や、フィニッシュ会場における滋賀県ならではの飲食・物産ブースの充実によって大会の盛り上げを図るなど、競技団体や関係市、庁内各部局等と連携しながら、開催に向けた準備を着実に進める。</p> <p>②次年度以降の対応</p> <p>継続的な開催に理解を得られるよう、沿道地域の方々に丁寧な説明を行うとともに、出場されたランナーにまた出場したいと思っていただけるよう、これまでの大会の課題や反省点を踏まえ、競技団体や関係市、庁内各部局等と連携しながら、より良い大会に向け必要な見直しを行う。</p> <p>(2) スポーツ大会の開催</p> <p>①令和6年度における対応</p> <p>ア 各種スポーツ大会における参加者数の増加を図るため、それぞれの大会の魅力発信や内容の工夫、広報活動の充実を図る。</p> <p>イ 大規模スポーツイベント等でボランティアの中心として活躍できる人材の養成に向けて、より多くの登録者が研修や活動へ自主的に参加いただけるよう、魅力ある事業を継続して展開できる枠組みを整備する。</p> <p>②次年度以降の対応</p> <p>ア 各種スポーツ大会における参加者数の増加に向けた取組を引き続き行うとともに、「みる」という視点からも、広報活動の充実に努める。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>イ 各種大会の開催にあたり「する」スポーツだけではなく、「支える」スポーツの観点から多くの企業や県民の参画を図り、びわ湖マラソンなどのスポーツイベントにおけるボランティア活動で魅力を感じていただき、本県で開催される国スポ・障スポへつなげる。</p> <p>(3) シンボルスポーツ創出支援事業</p> <p>①令和6年度における対応 事業名称を「シンボルスポーツ創出・定着事業」に変更し、市町が競技団体と連携して実施する令和7年の国スポ・障スポ開催競技の普及・定着に向けた取組に対して支援する。</p> <p>②次年度以降の対応 事業の継続により、国スポ・障スポ開催競技をシンボルスポーツとして普及・定着させ、地域の活性化につなげる。</p> <p>(スポーツ課)</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
<p>13 国民スポーツ大会に向けた競技力向上 対策</p> <p>予 算 額 542,995,000 円</p> <p>決 算 額 533,600,830 円</p>	<p>1 事業実績</p> <p>(1) 次世代アスリート発掘育成プロジェクト 10,255,304円 県内の運動能力に優れた子どもたちを発掘し、身体能力・知的能力の開発や様々な競技体験を通じて、トップアスリートを目指すジュニア選手の育成を行った。</p> <p>ア 次世代アスリートの発掘（滋賀レイキッズ第10期生） ・選考会の開催 エントリー数 274人 成績上位者 男子21人、女子21人、計42人を選考</p> <p>イ 滋賀レイキッズ第10期生 認定証交付式、第9期生 修了証授与式</p> <p>ウ 滋賀レイキッズの育成 ・育成プログラムの開催 9期生25回、10期生10回 ・競技体験プログラム追加体験会（希望者） 延べ44回</p> <p>エ プロジェクト実行委員会の開催 3回</p> <p>(2) 特殊競技用具の充実 9,575,775円 《自転車競技》 バトンホイール 1本、ディスクホイール 1本 《ライフル射撃競技》 ライフル銃 1丁、ピストル銃 2丁、ビーム機材 1式 《ボート競技》 舵手付きフォア 1艇、ダブルスカル 1艇、シングルスカル 1艇 《カヌー競技》 K-1艇 1艇、K-2艇 1艇、C-2艇 1艇 （《馬術競技》 競技馬 1頭（競技力向上対策事業にて、競技団体へ定額補助）） （《セーリング競技》 レーザー艇 4艇（競技力向上対策事業にて、競技団体へ定額補助））</p> <p>(3) 競技力向上対策本部が行う競技力向上対策事業 513,769,751円 滋賀県競技力向上基本計画に基づき、本県の競技力向上と安定した競技力を維持するため、滋賀県スポーツ協会をはじめとする幅広い主体の参画を得て組織する「滋賀県競技力向上対策本部」が行う各種強化事業および対策本部の運営に要する経費を負担・補助した。</p> <p>2 施策成果</p> <p>(1) 次世代アスリート発掘育成プロジェクト 実施した育成プログラムおよび競技体験をきっかけに第9期生については14名が種目転向または併行を決めた。また、鹿児島国体では、ライフル射撃の少年種別優勝をはじめ、ウエイトリフティング成年種別入賞など、延べ7種目において修了生の活躍が見受けられた。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>(2) 特殊競技用具の充実 競技力向上に必要な不可欠な特殊競技用具について、計画的に整備を行った。</p> <p>(3) 競技力向上対策本部が行う競技力向上対策事業 鹿児島国体においての総合順位は17位となり、前年を上回る成績を収めることができたものの、目標としていた10位以内には届かなかった。その一方、スポーツ特別指導員やふるさと選手など新たに本県選手として出場した選手の活躍により、成年種別や3倍競技で前回大会を大きく上回る競技得点を獲得できたこと、前回大会を上回る22競技が競技得点をあげたこと、高校1年生となった2025ターゲットエイジの入賞など、成果は着実に表れている。</p> <p>3 今後の課題</p> <p>(1) 次世代アスリート発掘育成プロジェクト 引き続き修了生の競技活動状況の把握に努めるとともに、現レイキッズ生に対し、個別に競技接続を進めていく必要がある。また、本事業が本県の競技力向上のレガシーとなるよう、本プロジェクトの質的向上を図り、アスリートの育成プログラムとして定着することを目指してより合理的で効率的な事業運営を検討する必要がある。</p> <p>(2) 特殊競技用具の充実 各競技の強化事業が効果的に行われるよう、スポーツ振興くじ(toto)助成金等の外部資金も活用しながら計画的に特殊競技用具の整備を行っていく必要がある。</p> <p>(3) 競技力向上対策本部が行う競技力向上対策事業 目標である天皇杯獲得に向け、成年種別については、成年選手確保計画に基づき、スポーツ特別指導員等での新戦力の獲得を進め、少年種別については、優秀選手の県内高校への進学促進に努めるとともに、開催年に向けた強化対象の焦点化を図っていく必要がある。 障害者スポーツについては、強化指定選手の拡充に向け、育成・強化に関わるスタッフの確保に引き続き取り組む必要がある。</p> <p>4 今後の課題への対応</p> <p>(1) 次世代アスリート発掘育成プロジェクト ①令和6年度における対応 令和4年度より開始した、レイキッズ受験者のうち、希望者に競技団体の体験会等の案内を行う「トライキッズ」の取組を充実させるとともに、レイキッズ生が体験する競技数を増やすことで、競技接続の機会の拡大を図る。本事業がさらに充実するよう、保護者、子ども、競技団体の理解を得ながら事業を展開し、成果と課題をもって取組を検証する。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>②次年度以降の対応 競技団体と連携を密にし、トップアスリートを目指すジュニア選手の発掘・育成・強化を継続的に行うための取組、その他条件整備について検討を進める。</p> <p>(2) 特殊競技用具の充実</p> <p>①令和6年度における対応 競技力向上に必要な下記の特種競技用具について整備する。 《ローイング競技》 シングルスカル艇 1艇 《セーリング競技》 ウィンドサーフィン級艇 2艇、セーリングスピリッツ級艇部品（競技団体への定額補助） 《馬術競技》 競技馬 1頭（競技団体への定額補助）</p> <p>②次年度以降の対応 競技規則の変更や老朽化等により整備が必要な特殊競技用具について、スポーツ振興くじ(toto)助成金等の外部資金も活用しながら計画的に整備を行っていく。</p> <p>(3) 競技力向上対策本部が行う競技力向上対策事業</p> <p>①令和6年度における対応 わたSHIGA輝く国スポにおいて天皇杯を獲得するためには、入賞実績のある競技・種目に加え団体競技や少年種別などこれまで得点実績のなかった競技・種目の強化により、本国スポでの入賞、近畿ブロック大会を上位で突破できる実力を養う必要があるが、限られたわずかな期間を有効に活用するため、2か年の計画に基づいて強化指定選手に対する強化事業の質・量の拡充を図る。 成年種別については、競技団体とともに新戦力のスカウティング活動を推進し、スポーツ特別指導員等でのトップアスリートの獲得を図るとともに、選手の強化活動を円滑に実施できるよう、大学、民間企業、学校、県スポーツ協会等、選手の所属先となる各主体との連携をさらに深める。少年種別については、多くの「2025ターゲットエイジ強化選手」が高校1・2年生となることから、少年種別選手として全国レベルの強豪選手・チームとの対戦機会を増やすことができるよう、強化事業の拡充を図る。 また、障害者スポーツについては、関係機関への働きかけを継続し選手を確保するとともに、「わたSHIGA輝く障スポ」の選手選考会となる県障害者スポーツ大会への参加を促す。併せて、強化事業に関わるスタッフの確保、競技別練習会の機会の充実など、育成・強化体制の構築に努める。</p> <p>②次年度以降の対応 「わたSHIGA輝く国スポにおける男女総合優勝（天皇杯獲得）」「わたSHIGA輝く障スポに向けた障害者スポーツの普及・競技水準の向上」に向け、各種事業を戦略的に進めていくとともに、基本計画に定める継続期の目標である競技水準の定着等、レガシー創出を見据えた施策構築を行っていく。</p> <p style="text-align: right;">(国スポ・障スポ大会局)</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
<p>14 第79回国民スポーツ大会および第24回 全国障害者スポーツ大会の開催準備</p> <p>予 算 額 503,272,000 円</p> <p>決 算 額 498,112,810 円</p>	<p>1 事業実績</p> <p>県や市町をはじめとする県内の主要な機関・団体で構成される「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ実行委員会」に対して、運営等に必要な負担金を拠出するとともに、市町が行う施設整備に対し必要な支援を行った。</p> <p>ア 総会（実行委員会第2回） 事業報告、収支決算報告、事業計画、収支予算等について審議し、決定した。</p> <p>イ 常任委員会（実行委員会第2回、第3回） わたSHIGA輝く国スポ・障スポにおける環境配慮にかかる取組のほか、専門委員会に付託した事項について審議し、決定した。</p> <p>ウ 専門委員会（主な審議内容）</p> <p>（ア）総務企画専門委員会 県および会場地市町の業務分担・経費負担基本方針一部改正（案）、国スポ・障スポ文化プログラム実施要項（案）、国スポ大会役員編成基準（案）、国スポ競技施設整備計画（第6次）（案）の決定</p> <p>（イ）広報・県民運動専門委員会 公式ポスター募集要項（案）、審査要領（案）、広報・県民運動令和6年度取組計画（案）、国スポ・障スポおもてなし広場基本計画（案）、国スポ・障スポメダル制作方針（案）の決定、公式ポスターデザイン入賞作品の選定</p> <p>（ウ）競技運営専門委員会 国スポ競技別リハーサル大会（案）、国スポ大会実施要項総則（案）、国スポ自衛隊協力要請計画書（案）等の決定</p> <p>（エ）全国障害者スポーツ大会専門委員会 障スポ競技別会期（案）、障スポ競技開始式・表彰式実施要項（案）等の決定</p> <p>（オ）式典・会場専門委員会 式典実施計画（案）の決定</p> <p>（カ）警備・消防専門委員会 開・閉会式等自主警備業務実施計画（案）、開・閉会式等消防防災業務実施計画（案）、開・閉会式等大規模災害・突発重大事案対策業務実施計画（案）、開・閉会式会場管理運営要綱（案）の決定</p> <p>（キ）宿泊専門委員会 弁当調達要項（案）、弁当調整施設選定基準（案）、宿泊専門委員会部会設置要綱（案）の決定</p> <p>（ク）医事・衛生専門委員会 医療救護実施要領（案）、感染症対策実施要領（案）、食品衛生対策実施要領（案）、宿舍衛生対策実施要領（案）、会場地市町医療救護業務推進指針（案）の決定</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>(ケ) 輸送・交通専門委員会 国スポ・障スポ輸送実施計画（第一次）（案）の審議、鹿児島国体・大会視察報告</p> <p>エ 特別委員会 (ア) 募金・協賛推進特別委員会 令和6年度取組計画の決定</p> <p>オ 競技会運営委員会（県外および県市町共催等により実施の5競技） 各競技会リハーサル大会開催方針（案）の決定</p> <p>カ 市町競技施設整備費補助金 市町が行う国スポ・障スポの競技会場となる競技施設の整備事業に対する支援制度に基づき、24件 210,564千円を交付した。</p> <p>2 施策成果 実行委員会の各専門委員会・特別委員会における所期の活動を行うことができ、先催県と比較しても、概ね計画どおり事業を進めることができている。</p> <p>3 今後の課題 両大会開催に必要な準備を着実に進めるとともに、競技用具の整備、競技役員の編成など、会場地市町および競技団体と連携して開催準備を進めていく必要がある。また、大会に向けては、県民の大会認知と参画意識を高めるため、広報啓発活動をより効果的に展開し、さらなる機運醸成を図る必要がある。</p> <p>4 今後の課題への対応 ①令和6年度における対応 ア 競技会の開催準備については、競技別リハーサル大会での課題を踏まえ、競技ごとに競技会場施設等の整備状況や競技運営準備状況について会場地市町および競技団体と課題や情報の共有を図り、着実に準備を進める。 イ 広報・県民運動については、各種イベントやSNS等による発信に加えて、広報誌や屋外広告等を強化し、効果的な広報につなげるとともに、市町・企業等とも連携し、大会に向けて県民の期待を高めるよう啓発を行う。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
<p>15 スポーツ施設の整備</p> <p>予 算 額 692,252,000 円</p> <p>決 算 額 686,764,088 円</p> <p>(翌年度繰越額 3,537,000 円)</p>	<p>②次年度以降の対応</p> <p>ア 市町が行う競技施設の整備事業に対する支援を行うとともに、本大会の開催に向け、会場地市町および競技団体と連携・協力しながら開催準備を進めていく。</p> <p>イ 広報・県民運動については、メディアの活用やシティドレッシング等により、直前となった両大会への一層の盛り上げを図るとともに、ボランティア参加者の活動準備や花いっぱい運動等を実施し、多くの県民に様々な形で大会に参画いただけるよう取組を進める。</p> <p style="text-align: right;">(国スポ・障スポ大会局)</p> <p>1 事業実績</p> <p>(1) 彦根総合スポーツ公園整備事業 22,089,060円 滋賀県立彦根総合運動場（彦根市松原町地先）を国スポ・障スポの主会場とするため、第1種陸上競技場を備えた都市公園として令和5年4月に供用を開始するとともに、大会運営に必要な備品を整備した。</p> <p>(2) 滋賀アリーナ整備 528,615,028円 P F I 方式により整備した滋賀アリーナの建設関係費を支出した。</p> <p>(3) プール整備 8,471,000円 「（仮称）草津市立プール整備・運営事業に関する基本協定書」に基づき、草津市が実施した土木関連業務、設計建設モニタリング業務に要する経費に対して財政支援を行った。</p> <p>(4) 県立長浜ドームLED照明整備 127,589,000円 屋内グラウンドの照明をLEDに更新した。</p> <p>2 施策成果</p> <p>(1) 彦根総合スポーツ公園整備事業 令和5年4月に供用を開始するとともに陸上競技場として必要な備品を整備した。</p> <p>(2) 滋賀アリーナ整備 P F I 方式により整備した滋賀アリーナの建設関係費を適切な時期に支出した。</p> <p>(3) プール整備 草津市において、県道付替工事や、設計建設モニタリング業務などを着実に進めるとともに、P F I 事業では供用開始に向け、建築工事を進めた。</p> <p>(4) 県立長浜ドームLED照明整備 屋内グラウンドの照明をLEDに更新し、光熱費の負担減を踏まえて付帯設備利用料金の改正を行ったことで、利用者にとってより良い環境で、より利用しやすい施設とすることができた。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>3 今後の課題</p> <p>(1) 彦根総合スポーツ公園整備事業 スポーツ施設以外の公園整備工事について、引き続き工事担当部局、彦根市、地元等関係者と連絡調整を行いながら着実な整備を進めるとともに、更なる施設の有効活用を行う必要がある。</p> <p>(2) 滋賀アリーナ整備 適切な維持管理運営を行うとともに、更なる施設の有効活用を行う必要がある。</p> <p>(3) プール整備 令和6年8月に供用を開始しており、草津市との連携のもと更なる施設の有効活用を行う必要がある。</p> <p>(4) 県立長浜ドームLED照明整備 適切な維持管理運営を行うとともに、老朽化に伴う更新を進めていく必要がある。</p> <p>4 今後の課題への対応</p> <p>(1) 彦根総合スポーツ公園整備事業</p> <p>①令和6年度における対応 供用開始後も工事担当部局や彦根市と協力しながら、着実に公園整備を進める。</p> <p>②次年度以降の対応 令和7年の国スポ・障スポに向けた準備を進めるとともに、大会後の有効活用について検討を進める。</p> <p>(2) 滋賀アリーナ整備</p> <p>①令和6年度における対応 PFI事業者と密に連携し、適切な維持管理運営に努める。</p> <p>②次年度以降の対応 令和7年の国スポ・障スポに向けた準備を進めるとともに、大会後の有効活用について検討を進める。</p> <p>(3) プール整備</p> <p>①令和6年度における対応 PFI方式による事業等、草津市との連携のもと事業を実施していく。</p> <p>②次年度以降の対応 着実に財政支援を実行していくとともに、大会後の有効活用について検討を進める。</p> <p>(4) 県立長浜ドームLED照明整備</p> <p>①令和6年度における対応 指定管理者と連携し、引き続き適切な維持管理運営に努める。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>②次年度以降の対応 令和7年の国スポ・障スポに向けた準備を進めるとともに、大会後の有効活用について検討を進める。 (スポーツ課)</p>